

市立銚子高校 同窓会だより

銚子市立銚子高等学校

同窓会報
第7号

発行
 銚子市春日町2689番地
 TEL 0479 250311
 FAX 0479 234441
 市立銚子高校同窓会
 発行責任者 杉山俊重
 編集長 岡根重雄
 印刷 三友舎印刷

新役員を迎えて

同窓会会長
杉山俊明



同窓生の皆様には日頃より同窓会発展の為に協力ご支援を頂き有り難うございます。お蔭様を持ちまして同窓会の運営も一年間無事行うことが出来ました。

さて、昨年の同窓会だよりにも記述致しました様に、今後の同窓会組織充実の一つの方法として、会長委嘱による幹事の増員をお願い致しましたが、2月8日に行なわれまして新幹事就任式には関東一円に大雪が降り、銚子に於いても荒天の中にも拘らず60余名の参加を頂き盛会の中に就

任式を開催させて頂きました。新幹事の皆様には卒業時就任の学年幹事とは違い同窓会全体の運営に関わって頂きたいと考えております。その流れから7月の幹事会も例年以上の参加者を頂き活発な質疑も交わされ、総会に向け心強い思いが致しました。

7月20日に開催の26年度市立銚子高校同窓会総会に於いても新幹事、更には今年で3年目を迎える「還暦同窓会」の同窓生を迎え90名近い参加者を得る事が出来ました。本年度総会は、千葉科学大学看護学部教授の安藤智子先生を基調講演講師にお迎えし、「いつまでも生き活きと人生を送るために」をテーマにしてお話を頂きました。県内各地の健康状態が発表されたばかりでもありタイムリーな講

演でありました。又、今総会に於いて東京同窓会支部長の安藤徳司氏、教職員春台会前会長の伊勢崎翼氏、工友会の江畑雅充氏が副会長として就任され、嶋田敬則氏が事務局次長、来栖真吾氏が会計、岡根重雄氏が広報委員長として夫々ご就任を頂きました。中でも春台会・工友会のお二人の副会長就任は、同窓会本部の組織強化はもとより同窓会支部会拡充、支援協力を図る為でもあり、今後も職域別・地域別の支部の拡大が図れば幸いと考えております。

歴史と伝統ある組織を土台として、新たな組織・伝統を築いていくことは一朝一夕にはまいりません。まずは組織の基礎と仕組みを考え、同窓生の為の同窓会のあり方を模索していきたいと思

同窓会会員数 (卒業生総数)

	回数	計
旧制中学校	8	668
併設中学校	2	51
旧銚子高等学校	60	18,575
工業化学科	48	3,500
旧銚子中学・高校合計		22,794
銚子西高等学校	30	6,547
普通科	29	1,169
看護科	2	※ 73
(専攻科)		
銚子西高校合計		7,716
銚子高等学校	6	1,878
普通科	4	169
理数科	2	77
看護科	4	※ 141
(専攻科)		
総合計		34,034

※専攻科は全員本校看護科卒 (平成26年3月)



平成26年7月20日(日)同窓会総会 懇親会に参加された皆さん (うらしま写真館様提供)

母校は今



学校長 長谷川 茂

生涯にわたって輝けるように

同窓会会員の皆様には、平素より母校へ思いを寄せていただき、また、物心両面にわたり御支援をいただきまして誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

さて、長い人生を豊かに送るためには、学力を伸ばすだけでなく、幅広い教養やコミュニケーション能力、更に人間的な魅力がより重視される時代になってきました。

本校では、「確かな学力と豊かな心・健やかな体を育み、文武両道の全人教育を通してリーダーとなる人材育成をする。」を教育目標として、少人数学習制度別授業、進学講習、勉強会宿などの学力向上策と合わせて、部活動や学校行事を豊かな人間性の育成を図るための重要な教育活動と位置付け、充実・活性化に取り組みんでいます。

上しています。この春には、国立大学に33名、私立大学に597名、専門学校に39名が合格し、また、公務員に3名、民間企業等に9名が難関を突破して就職するなど、多くの生徒が進路実現を果たしています。これは、学力向上策とともに高校入学から卒業までを見通したきめ細かな進路指導の成果だと考えています。

発見し、伸ばすとともに、成就感や達成感を実感し、自己肯定感を高めてくれることを期待しています。また、キャリア教育にも積極的に取り組んでおり、その一環として、毎年、人生観や職業人としての在り方、社会人として求められる人間力などについて学ぶ目的で「職業人講話」を実施しています。昨年度は、多方面で御活躍されている同窓生15名の皆様に講師をお願いし、有意義な話を伺うことができました。御多用のところ、御協力いただきありがとうございます。統合して7年目を迎えた現在、生徒達は、市立銚子高校に誇りを持ち、三万四千有余名を数える卒業生の皆様が創り上げた清新はつらつたる校風のもと、意欲的な学校生活を邁進するとともに、高い目標を掲げ、その実現に向けて懸命に努力を積み重ねています。今後、様々な教育活動の充実を図り、生徒一人一人に夢・希望の実現に必要な能力や社会的・職業的自立に向けて必要な能力・態度を育成し、一人一人が生涯にわたって輝けるように、教職員の力を結集して取り組んでまいります。母校の後輩のため、本校の教育活動にお力添えをお願いするとともに、同窓会の益々の御発展を祈念申し上げます。

平成26年度 進学状況

種別	普通	理数
国公立大学	17	9
私立大学	176	22
私立短大	14	1
専門学校	31	1
文科省管轄外	1	—

主な大学(現役合格者数)

- (国公立33) 群馬大1(医)、一橋大1、筑波大2、千葉大5、帯広畜産大1、弘前大1、茨城大4、埼玉大4、横浜市立大1、富山大1、静岡大1、首都大東京2、高崎経大1、鉦路公立大1、秋田公立美大2、千葉保健医療大3、神奈川保福大1、青森県立保健大1
- (私立597) 早稲田大2、慶應義塾大3、上智大1、学習院大6、明治大9、青山学院大5、立教大9、中央大16、法政大12、日本大38、東洋大23、駒澤大24、専修大22、成蹊大5、千葉工大21、國學院大4、帝京大16、大東文化大18、東海大7、立命館大1、千葉科学大33
- (私立短期大学・専修学校57) 旭中央病院附属看護専門学校3、他7、白十字看護専門学校3、他

就職

- (公務員3) 国土交通省、成田市、神栖市
- (民間企業9) ヤマサ醤油(株)、クワレ鹿島事業所、DIC(株)・旧・大日本インキ、他



部活動名	部員数		県大会出場	各部の活動内容および主な結果など
	男子	女子		
野球	30	6		日々の練習を大切に、各大会において全力で戦います。
陸上競技	12	21	○	県高校総体では男女9種目延べ26名が出場し、男子400m・男子110mハードル・女子200mの3種目で準決勝進出。
弓道	15	27	○	県総体では男女団体ともに予選を突破し、決勝に出場することができました。インターハイ出場は逃しましたが、新人戦に向けて頑張ります。
剣道	5	7	○	関東大会県予選会では団体戦で男女ともに1回戦を突破。総合体育大会地区大会では勝ち上がり、県大会に出場。
柔道	0	0		部員募集中。(休部中)
卓球	11	6	○	関東、総体とも、県予選に団体等で出場しました。大会が終了した現在、特に男子部員が不足しています。やる気のある部員を募集します。
バドミントン男子	36	0		新チームはブロックでは2位のシード権を獲得しています。11月の新人大会に向けて、日々の練習に励んでいます。
バドミントン女子	0	32	○	関東大会(団体戦)地区1位で県大会出場。総体(個人戦ダブルス)地区1位と3位で2組県大会出場。(個人戦シングルス)地区2位で県大会出場。
ソフトテニス	14	8	○	総体県大会では1回戦で県立柏高校に3-0で勝利。市民大会「黒潮杯」に参加。
バスケット男子	17	2		11月の新人戦に向けて、日々の練習に取り組みます。
バスケット女子	0	15		11月の新人戦に向けて、日々の練習に取り組みます。
サッカー	43	6	○	関東大会県予選は出場を逃しましたが、県総体は3年ぶりに出場。1回戦突破し2回戦でシード校に接戦の末敗れました。次に向け頑張っていきます。
ラグビー	13	3	○	春の大会は2回戦敗退でしたが、現在は千葉工業高との合同チームで花園を目指し、頑張ります。
硬式テニス	36	17	○	男女ともにシングルスとダブルスで県大会出場。団体戦も男女ともに、県大会へ出場。
バレー男子	14	3	○	総体県大会に出場し、2回戦まで進みました。2回戦の成田高校に1-2で惜敗。
バレー女子	0	22	○	総体県大会に出場しましたが、1回戦フルセットで惜敗。次の新たな目標に向かって日々の練習に励みます。
空手道	4	9	○	総体県大会では、形、組手競技とも、思うような成績を残せませんでした。先輩が築いてくれたものをステップにして新たな目標にチャレンジします。
吹奏楽	4	27	○	6月には東関東選抜吹奏楽大会や東総体区連合音楽会に参加しました。千葉県吹奏楽コンクール高校A部門金賞本選大会出場。
美術	1	22		文化祭や6校合同展覧会などで作品を発表しています。週5日活動しており、部員それぞれが鉛筆画、水彩画、油彩画などの制作に励んでいます。
書道	1	38		現在、成田山競書大会と書き初めコンクールの作品制作をしています。文化祭では、書道パフォーマンスを行いました。
華道	0	11		文化祭展示や小原流花展に作品を制作しています。また、東京地区のいけばな競技会にも参加し、優秀な成績を収めています。
茶道	0	45		文化祭では、お茶会を催します。現在はお点前の練習に励んでいます。
演劇	5	17		秋季地区発表会に向け、猛特訓中。10月3日、4日匝瑳市民ふれあいセンターで上演します。
写真	6	20		各自のフィールドワークを中心に活動しています。市銚祭では、写真を使ったモザイクアート制作や、各自がそれぞれ自慢の1枚を展示する予定です。
科学	34	23		博物館研修、夏の研究発表、科学の甲子園への出場、科学コンテストなど積極的に活動しています。生物オリンピック一次予選では優秀賞を獲得しました。
文芸	0	23		4月に部誌を発行。文化祭では作品・部誌の展示・販売と短編アニメを制作上映。7月には東総地区合同漫画展に参加しました。
英語	0	19		文化祭では創部以来初の英語劇にチャレンジしました。秋は英語スピーチコンテストに向けて日々練習しています。
JRC	5	13		秋からの活動は地区メンバー協議会、県メンバー協議会へ参加をし、老人施設訪問を行う予定です。
家庭	0	11		月1回程度の活動を通して、様々なお菓子作りに挑戦しています。
生徒会本部	5	4		7月に生徒会役員選挙があり、新体制になりました。今後は壮行会、賞状伝達式、生徒会だより発行、予算の会計処理等を行っていきます。
合計	311	457		



同窓会報告

平成25年10月29日、昭和27年卒が傘寿の節目に東京同窓会地域の20人が「菓鴨」ではなく「原宿」に集いました。まだまだ業界又は地域の彦左エ門として頑張っています。全員がああ校歌と碑の保存を望んでいます。(塙縫之助)

平成26年度 同窓会役員

Table of executive officers for the 26th fiscal year, including roles like Chairman, Vice Chairman, Secretary, and various committees.



平成26年度 同窓会基金 会計

Summary table for the 26th fiscal year alumni fund accounting, showing income and expenses.

Detailed income statement for the 26th fiscal year alumni fund, listing items like membership fees and donations.

Detailed expense statement for the 26th fiscal year alumni fund, listing items like graduation gifts and administrative costs.

7月20日(日)から、講演会、懇親会、総会、懇親会



安藤智子氏



安藤徳司東京支部長

懇親会は柴田泰三さんの乾杯の御発声により始まり、和やかに、たいへん盛り上がりがあった。同時開催の還暦同窓会には38名が参加された。

平成26年度 同窓会 会計

(単位 円)

Summary table for the 26th fiscal year alumni association accounting, showing total income, expenses, and surplus.

(収入の部) (単位 円)

Detailed income statement for the 26th fiscal year alumni association.

(支出の部) (単位 円)

Detailed expense statement for the 26th fiscal year alumni association.

総会報告 講演は 千葉科学大学教授 安藤 智子氏



の順で開催された。参加者85名。

講演会は千葉科学大学看護学部教授の安藤智子氏が「いつまでも生き活きと人生を送るために」と題して、高齢社会の乗り切り方についてわかりやすく講演された。

総会では平成25年度の事業、決算の承認と平成26年度の事業計画、予算が承認された。また、執行部役員が一部改選され新東京支部長の安藤徳司さんはじめ3名が加わった。



平成26年度 同窓会事業計画

Vertical text detailing the 26th fiscal year alumni association business plan, including dates for the general meeting and other events.

「職業人講話」

平成25年10月10日、1年生を対象に卒業生による、職業に関する授業が行われました。講師のみなさんです。(敬称略)



野本光太郎 平成17年卒
千葉県税務事務所/公務員



横田喜一郎 昭和52年卒
茨城県職員/公務員



濱野 恭一 昭和53年卒
銚子商工信用組合/金融



當金 志保 平成18年卒
東庄町立石出小学校/教員



高木 理佳 平成17年卒
つくも福祉会 鶴巻保育園/保育士



高安 重一 昭和60年卒
㈱アーキテクチャー・ラボ/一級建築士



榊 建志 昭和55年卒
(株)竹中工務店/建設



菅谷 武芳 昭和60年卒
産業技術総合研究所/研究者



越智まりこ 昭和58年卒
藤原歌劇団/オペラ歌手



加瀬 詩織 平成21年卒
空想ミカサービス/フロントスタッフ



島田真理子 平成16年卒
高規株式会社/ブライダルスタイリスト



菅井 啓太 平成15年卒
あやめ荘/管理栄養士



伊良部真一郎 平成10年卒
千葉県労務病院/医師



田中 紘明 平成19年卒
海老名総合病院/看護師



小林 久恵 平成17年卒
日本イーライリリー(株)/薬剤師

会費の納入をお願いします。年会費1,000円

振込先 郵便局 口座名 銚子市立銚子高等学校同窓会 口座番号00100-2-189041

一年は早いものです。つい忘れがちなので是非この機会に終身会費をお願いします。(10,000円)

平成24年9月より平成25年8月まで納入分 (前号記載漏れ 卒業年順・敬称略)

昭和20年卒
花ヶ崎 勲
昭和22年卒
浅川 勲
昭和24年卒
佐藤 信雄
昭和26年卒
大内 恭平
大羽 昇
昭和28年卒
遠藤 博

昭和30年卒
伊沢 文男
昭和31年卒
嶋田 増雄
昭和32年卒
添田 政治
寺村 一郎
昭和33年卒
栗芝 正夫
菅 隆雄
山口 武之

昭和35年卒
辻谷 勝弘
伊橋 靖浩
名雪 穂
昭和37年卒
伊東 亮太郎
佐久間 将征
昭和38年卒
(高嶋)波木 睦
昭和41年卒
(座古)飯島 盛行

石毛 良夫
市原 博明
須之内 洋文
昭和45年卒
宮城 和男
昭和46年卒
(滑川)品村 恵美子
(宮内)椎名 恵子
(見本)西 裕子
昭和48年卒
(安藤)青木 国子

昭和50年卒
麻生 裕一
多田 智子
柳川 壽夫
昭和51年卒
(伊東)作田 恒子
飯島 正章
熱田 行宏
昭和53年卒
(熱田)根本 道
昭和58年卒

遠藤 達也
昭和61年卒
渡邊 俊幸
(宮内)藤崎美穂子
(嶋田)宮木 実智
川波 宏彰
平成3年卒
高橋 弘道
山本 直美
小田島 加奈
平成8年卒

伊東 靖行
辻谷 実貴子
平成13年卒
井上 靖教
野平 明彦
吉井 大介
岡山 美紀
鶴田 春一郎
平成16年卒
長江 彰
平成20年卒

大木 淑江
平成23年卒
石毛 秀典
高田 瑞穂
日下 紗佑里
石田 有矢
塙 真澄
印南 尚美
平成24年卒
日下 実沙子
安田 智美

平山 義浩
細野 和也
木内 葵
(根本)関根 大輔
菅谷 賢志
高田 伯約
《合計 66件》

終身会費 納入者一覧

平成25年9月より平成26年8月まで納入分 (卒業年順・敬称略)

昭和20年卒
加田 定
浜田 宏
昭和22年卒
松本 保
昭和26年卒
大倉 茂喜
昭和29年卒
飯沼 浩
眞住 高嶺
昭和31年卒
柏熊 和雄
昭和33年卒

唐津 志郎
昭和35年卒
(塙)篠崎 春子
昭和36年卒
大森 翫士郎
伊奈 靖
松浦 正彦
昭和37年卒
野中 健夫
昭和38年卒
工藤 忠男
昭和42年卒
辰野 隆

(原)堺谷 操
菟岡 喜一郎
宮内 房江
野平 倍章
(平山)平山 芳子
昭和44年卒
木村 啓子
昭和47年卒
飯島 雅敏
(梅沢)高橋 登志子
(江畑)武藤 美代子
(松本)野平 典子
昭和48年卒

(鶴野)鈴木 恵美子
和泉 仁
(八角)野上 肇
関 公一
谷口 博則
(兼平)秋葉 昌明
(山崎)篠原 節子
野中正勝
昭和52年卒
鶴月 一年
(池田)原 明美
横田 喜一郎
谷下 田優子

昭和55年卒
飯岡 かおる
伊東 悦子
庄司 幸弘
芝野 正実
昭和56年卒
齋藤 弘朗
昭和57年卒
椎名 克明
向後 利昭
昭和60年卒
五ノ川 正朝
昭和61年卒

藤崎 光太郎
昭和62年卒
(安藤)水野 真紀子
平成4年卒
沖津 悌三郎
星野 珠穂
平成9年卒
小足 雄高
野平 泰彦
三角 暁子
加瀬 智貴
三河 真弓
平成11年卒

(村田)杉浦 理恵
平成14年卒
鈴木 靖之
平成15年卒
村田 英恵
平成16年卒
村田 直子
平成18年卒
藤田 江美
平成19年卒
小林 由佳
平成24年卒
山本 宗宏

飯岡 さやか
白石 実穂
日高 洋平
平成25年卒
玉崎 悟
根本 裕太
春山 千尋
齋藤 光紀
佐々木 遼
島根 颯也
手嶋 涼介
大関 眸
大木 真理子

安藤 千晶
黒田 夏花
鈴木 真衣
高木 恵里
田谷 義輝
藤代 真維
森山 颯斗
《合計 80件》



誇りとは・・・
波木 睦
(S38年卒)



「あなたは自分のどんな点を誇れますか？」
皆さんはこんなこと尋ねられたことありますか。その時、残念ながら私は即答できませんでした。胸を張って「〇〇〇〇を誇りとしております。」と言えませんでした。
成人して以来自分の生きてきた40年あまりに自信がもてないというわけではありませぬ。自分の心を大事に生きてきたのに、それすら誇りと思えないのでしょうか。こみ上げる悲しみを久しぶりに味わいました。
実は誇れるものはたくさんあったはずですが、あまりにも普段過ぎる生活の中で、たぶん広い社会に出ていけなかつたので、誇りを具体化できなかったのです。勤務中に上司から「よくやった」と言われればそれ自体が誇りになつて

いくに違いありません。つまり私は長年誰からも褒められたことがなかったのです。それ以来私は努めて外の世界に積極的に参加することにしました。自分自身を、自分の能力を確かめたかったからです。そして十数年がたちました。
今、私は自分の強い信念を心にかけています。人々に少なくとも喜んでもらえることを心情として生きています。このことは私の誇りです。そして世界一大きな奉仕団体の一員として地域のニーズに合わせた社会奉仕活動をしています。中でも青少年健全育成に精を出しています。青少年を社会にはびこる悪から守るべく、危険な汚染から青少年を守るのには私たちが大人の責任だと思っています。私は70歳になりましたが、目の前の青少年の未来を思い描いた時、彼らこそ健康で素敵な老人になつて欲しいと思えました。
先日、スーパーで数名の中学生とすれ違いました。「あつ、ダメ、絶対!!」のおぼさんたちだ。」と手を振ってくれました。
そうなのです。薬物の乱用から青少年を守るこの地道な奉仕活動に私は強い誇りを持つことができました。
(ライオンズクラブ国際協会千葉県ガバナー)

50年目の再会
生駒文俊
(S38年卒)

「もしやVISTA同窓会の参加者ですか？」ワシント

ンのホテルのフロントの前で、ひとりの初老の男性が私に話しかけてきました。そうだと答えると「年恰好からして自分と同じくらい年齢に見えるので話しかけました。」との返事、何とオランダの代表ロバートだったのです。これが1962年8月末に、もう二度と会うことはないかも別れて以来50年後の再会の始まりでした。お互いに懐かしさのあまり、思わず抱き合つて喜び合いました。その後、朝食をとりながら、積もる話に花が咲きました。
VISTAとは Visit of International Student To America の略で、1962年の夏に米国赤十字社によって、世界42ヶ国から11名の青少年赤十字団員で高校生ぐらいの年齢の若人を招待し、それぞれ10人ぐらいのグループに分けてアメリカ国内を一週間ずつ3か所の都市を訪れ、ホームステイをしながら彼らの生活を実際に体験するというものでした。加えてその地区の赤十字支部を訪れ、種々の活動を見学し、あわせて国際親善に役立てるといふプログラムでした。最後の週は全員がワシントンD.C.に集められ、米国赤十字本社を訪れ、それまでのまとめとフェイスカッションを行いました。市内見学をしたりしました。更にホワイトハウスを訪れ、故ケネディ大統領と全員で会見するというプログラムも組まれていました。

のスピーチをしてきたけれど、今日のような気持ちでお話しをするのは初めてで、感激のあまり言葉が出てきません。」と話し始めました。彼も、50年前韓国の代表としてVISTAに参加していたのです。ケネディ大統領に会えたことが彼をして外交官への道を進ませ、(彼とほかに二人程、タブーを破つた大統領のサインをもらった事が後になってわかりました。) ついに国連事務総長に選ばれたということでした。彼は私達のために、ニューヨークの国連ビル内を自ら案内してくれ、一般の見学者は立ち入れない国連総会場の壇上(普段テレビニュースでよく見る)で潘氏御夫妻と一緒に写真を撮ったり、全員で記念撮影をしたりしました。その後、別室で国連についての説明がありました。国連は紛争地においても人道的支援を行っており、潘氏によれば、赤十字には *Humanitarian* (無限の可能性) としても訳すのでしょうか)があり、国連の人道主義者でさえ戦闘著しく、最も危険な地域での活動の最後の望みとなつているとの事で、当時のシリア情勢の下で赤新月社(イスラム圏の赤十字社)と一緒になつて人道援助をしているとの説明がありました。今回112名のうち、残念ながら30余名しか参加できませんでしたが、皆思いもよらなかつた素晴らしい再会のひと時を味わわせてもらいました。また会いたいの事で再度の再会の約束をして解散となりそれぞれ帰国の途につきました。

思えば、今から50数年前、お山で青少年赤十字活動をやってきたのがきっかけとなり、運良く日本代表の4人を選ばれたことが、このような生涯忘れられない経験をさせてもらったと思つています。当時朝野先生と故増田先生や関係者の皆様の御尽力があったと伺つております。感謝をいたしております。
今、時代はグローバル化の波が押し寄せてきています。半世紀前に母校お山にも海外との接点があつたことを思い、後に続く卒業生はもとより希望にあふれる若い人達は心を一層の発展をされる事を願っております。
今回、それぞれの伴侶を同伴の者も多く、私の妻も50年前は知る由もなかつた感激の一部を味わえたと思います。2012年8月末のことですが、ご紹介させていただきま

部活時代が礎
小崎 貴紀
(H元年卒)



私は平成元年に(おやま)を卒業後、中央大学に進学。20代は働きながら「ビジネススクール」でも学び、以降はスカイパーフェクトTV(スカパー!)の事業開発はじめ、様々な事業会社の立ち上げや買取、コンサルティングを主としてきました。現在は、日

本及びアジア向け投資会社（飛翔投資開発株式会社）を軸に複数法人を経営している。

しかし、高校時代から変わらないのはスポーツへの思いです。私の高校時代はサッカー部での活動に明け暮れたという過言でなく、当時は優秀な先輩や同僚に恵まれ、千葉県下でも屈指の強豪時代でした。入学早々、先輩方が県大会で3位になり、関東大会や全国大会を狙うような時代だったのです。残念ながら全国大会出場には届きませんでしたが、私の代も全国大会優勝経験校や当時国内最強といわれていた「読売クラブ（現在の東京ヴェルディ）」などと試合を行い、全国レベルを常に意識しながら3年間を過ごしました。大学では足の故障もあり、サッカーを続けることが難しくなりました。同学年の友だちが大学4年時に日本一になり、卒業と同時に開幕した「Jリーグ」へ巣立っていき

「四国アイランドリーグ」への出資協力を通じ、2008年末まではアイランドリーグの専務取締役及び、傘下球団「香川オリーブガイナーズ」の代表取締役社長を兼務するなど野球を通じた社会貢献活動も兼務しました。更には、2009年から2シーズン、Jリーグ「東京ヴェルディ」の株主兼取締役事業本部長、2011年には当時JFLだった「カマタマーレ讃岐」（現・J2）のGMを務め、私自身も想像していなかったほどスポーツにも関わってきました。現在は再び、「四国アイランドリーグ」の株主として、同リーグの経営に関与しており、この9月からは日本野球界に新たな「一般社団法人日本独立リーグ野球機構」も設立致しました。結局、ここまで長くスポーツに関与しているのも、高校時代のサッカー部での3年間が礎であり、あのときの情熱が今も自分を動かしていると感じています。そんな高校時代を過ごせたことは幸せでしたし、今の学生にも経験していただきたいと願っています。

最近思うこと 安藤 由起子 (H10年卒)



銚子市立銚子西高等学校、衛生看護科を卒業して早〇年。その後、東京に進学。無事に

看護師免許を取得した後は地元の総合病院に勤務。高校時代の「看護教員になりたい」という夢が叶い、恩師と共に銚子市立銚子高等学校、看護科・専攻科で勤務することができ忙しいながらも充実した日々を駆け抜けました。平成24年3月の看護科・専攻科の閉科と共に退職、本当にアツ！という間の日々でした。振り返ってみると看護師になりたい、看護教員になりたいという夢を叶えた自分は何て幸せ者でしょうね。そこに辿り着くまで簡単ではありませんでしたし、正直自分の母校と長年勤務した職場との別れは残念でしたが「次は何しようかな？夢は沢山、何から始めよう？」と新たな一歩を踏み出しました。実は私の中で気になっていたキーワードがあり、それが「心身相関」「ストレス」「癒し」等々の心理系。せっかくなので「心身相関」について大学編入をしました。今年3月に無事修了しましたが、社会人大学だった為、様々な年齢層や職場の方と交流しながらの学生生活は刺激的で「学ぶって楽しい！」と久しぶりの感覚。色彩心理のセラピストの資格も取得しました。元が看護師である為、心身健康は常に気になるワードではありましたが2人の子を持つ親として、家族の健康を守る主婦として、心身のバランスを崩した自身の経験もあり、改めて「より良く生きるための知恵」は生涯学び続けていかなければならないテーマだなあと感じたこと2年でした。最近の仕事を持つ大人ばかりでなく子供たちも多忙な毎日を送っている気がします。皆

私は西高創立14年、平成15年4月15日、15年3月まで保健体育科の職員として勤務しました。部活動はそのほとんどの期間、バドミントン部顧問でしたが西高1年目はバレーボール部顧問として2年目から第三顧問としてバ



恩師からの便り 思い出深い西高 田中 千恵子

さんは、上手にセルフマネージメントできていますか？身体が病んでも心まで病ませてはいけません、心が病んでも身体まで病んではいけません。すよね。私は何でも夢中になつてやりすぎてしまうのですがここ最近、藤沢優月さんの「60%の法則」をブレイクに。毎日のスケジュール、やらなければならぬことは6割でできればOK！残り4割は未来の自分への投資、自分の好きなこと、楽しみを入れながら自分の重心がぶれないように生活したいですね。

ドミントン部の指導に関わりました。当時は西高バドミントン部を創始された鶴澤（石井）俊男先生や宇野典男先生が熱心に指導されていました。ですから、バドミントン部について語るには私よりも鶴澤先生や宇野先生の方がふさわしいかと思えます。私のバドミントン部での指導の重点は、日々の練習と継続でした。バドミントンは楽なスポーツ、バドミントンぐらいならと安易に入部を希望する生徒が多く、よく考えて入ること、三年間続けられると思うなら入部するように、また一度入ったら最後まで「続ける」ことを生徒に求めました。指導力不足で県大会ではありませんが、生徒は継続することで何かを学び得たことと思います。思い出深い行事は体育祭です。地域の老人会や町内の方々の作成、用具製作・準備、会場の設営・整備。当日の聖火リレー、聖火点火、全校体操、壇上で工夫を凝らした模範体操、朝練までしたクラス対抗30人長縄跳び、「いやだ、いやだ」と言いながらも心待ちにしたフォークダンス、力が入りすぎマメをつくった綱引き等々、毎年生徒と職員が力を合わせ作り上げた体育祭。今となつてはどれもなつかしい思い出です。もう一つ思い出深いことは修学旅行です。私は副担任をやるのが多く何度か修学旅行の直前に台風が接近したことがありました。銚子から東京駅まで電車では無理と判断

しバスで駅ごとに乗せていくことに。急きよ出発前日に連絡網を使って生徒に電話で伝えました。確実に伝わったか心配でしたが当日は大雨の中一人も乗り遅れることなく修学旅行に参加でき、バスが東京駅に着く頃には晴れて無事に行くことができたというところがありません。

衛生看護科のクラス担任、授業担当もしました。衛生看護科の生徒ははつきりとした目的意識を持って入学してくるので普通科の生徒が進路をどうしようかというのではだいたい違う。十五歳の春に進路を決めて卒業の頃は准看護師の資格取るために一生懸命取り組む。その姿がたいへん印象的でした。

恩師からの便り

あなた達との青春

本間千恵



「集合！」というキャプテのかけ声に、「集合でーす」と応じながら駆け寄ってくる部員たち。互いに向き合い、一瞬の緊張の後に「お願いします！」の大きな声。30年間変わるこのなかったバレー部の風景。

当時のバレー部は男子・女子と別れてはいなかったが、共に過ごした時間の長い女子チームの変遷をたどると、大

そういった姿勢が普通科の生徒にも良い影響を与えていたと思います。

西高はこぢんまりとした親密度が高い学校でした。西高の卒業生は「西高無くなっちゃった」って寂しい想いを口にします。役目を終え静まりかえった学び舎、銚子西の校名は無くなってしまうが丘で皆さんの野尻が丘で過ごした3年間の思い出はいつまでも消えることはないと思います。

私は千葉県出身ではありませんが、これからは銚子に根を生やして生きて行くつもりです。

皆さんの益々のご活躍を祈り、両校の伝統を引き継いだ「市立銚子高校」の発展と活躍を期待しています。

① 大きく次の3期に分けられる。パスもできなかった私に技術を教えてくれた、ほぼ友人感覚だった頃の初期の部員たち。

② 2年目までいきなりベスト8に入ったものの、その後、勝てない悔しさを共に噛み締めた頃の部員たち。

③ 半数以上が初心者でありながら新人戦でベスト16入りを果たし、やがて、県大会でどこまでいけるかを狙えるまで力をつけてきた頃の部員たち。

この間につくり上げたフォーメーションは4パターン。一人ひとりの部員、一つひとつの試合には、今もいろいろな思いがある。とりわけ忘れられないのは、合宿時の彼女たちの逞しさと爽やかさだ。金銭面のやりくりをしながら、休む間もなく朝・昼・夜と食事を作り続けたマネージャー



今だからこそ言える。あなたたちの監督だった30年間、どこに行っても、私には恥ずかしい思いとがない。あなたたちと私の青春の物語が綴られてきた30年間の、たくさんのお楽しみをありがとう。

の矜持。どんなに疲れても決して弱音を吐かず、声を出しながらボールを追いかけていた選手の真摯な姿。受験勉強の合間に練習に参加してくれた3年生の度量。そして、現役時代の恩返しとばかりに貴重な時間を割いてローテーションを組み、全面的な支援を惜しまなかった卒業生たちの優しさ。当たり前のようにつながっていた人のつながり。

このチームワークがあったから、県外校を含む100人規模の合同合宿が可能となり、それを何年も続けてこられたのだと思う。

確かに女子は、男子のように春高バレー出場という輝かしい結果は残せなかった。しかし彼女たちは、今日の自分が昨日の自分よりも成長していることを信じて努力を続けていた。そして、自分を支えてくれた人たちの存在を理解し、常に感謝の気持ちを持ち続けた。

還暦同窓会 (昭和48年卒)

